

災 害 の 概 況

(平成 19 年 上半期)

鳥 取 県 西 部 広 域 行 政 管 理 組 合
消 防 局

目 次

(ページ数)

災害概況のまとめ	1
I. 火災概況	2
1. 火災状況	2
2. 火災原因	3
3. 死者、負傷者	3
別図 I－ 1 火災件数の推移	3
別図 I－ 2 種別ごとの火災件数と構成比率	3
別図 I－ 3 月別の火災件数	4
別図 I－ 4 市町村別火災件数の構成比率	4
別図 I－ 5 経過別死者発生状況	5
別図 I－ 6 経過別負傷者発生状況	5
別表 I－ 1 平成 19 年上半期の火災概況	6
別表 I－ 2 月別火災発生状況	7
別表 I－ 3 市町村別火災状況	8
別表 I－ 4 原因別火災発生概況	9
II. 救急概況	10
1. 救急出場状況、救急搬送状況	10
2. 市町村別救急活動状況	10
3. 傷病程度別搬送状況	10
4. 年齢別搬送状況	10
5. 署所別救急活動状況	10
6. 月別救急活動状況	10
7. 現場到着所要時間、収容所要時間	10
別図 II－ 1 事故種別救急出場状況	11
別図 II－ 2 事故種別救急搬送状況	11
別図 II－ 3 過去 5 年間の救急推移	12
別図 II－ 4 市町村別救急活動状況	12
別図 II－ 5 傷病程度別搬送状況	13
別図 II－ 6 年齢別搬送状況	13
別図 II－ 7 署所別救急活動状況	14
別図 II－ 8 月別救急活動状況	14
別図 II－ 9 現場到着所要時間	15
別図 II－ 10 収容所要時間	15
別図 II－ 11 応急手当実施状況	16
別図 II－ 12 救急救命処置状況	16
別図 II－ 13 医師引き継ぎ時の状況	16

Ⅲ．救助概況	17
1．事故種別救助出動状況	17
2．事故種別救助活動状況	17
3．事故種別救助人員状況	17
4．管轄別救助活動状況	17
5．市町村別救助活動状況	17
別図Ⅲ－ 1 事故種別救助出場状況	17
別図Ⅲ－ 2 事故種別救助活動状況	18
別図Ⅲ－ 3 事故種別救助人員状況	18
別図Ⅲ－ 4 管轄別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 5 市町村別救助活動状況	19
Ⅳ．119番着信概況	20
1．概況	20
2．月別の着信状況	20
3．携帯電話からの着信状況	20
4．電話種別による通報状況	20
別表Ⅳ－ 1 119番着信件数の推移	21
別表Ⅳ－ 2 月別119番着信状況	21
別表Ⅳ－ 3 電話種別による119番着信件数の推移	21
別表Ⅳ－ 4 電話種別の通報状況	22
別表Ⅳ－ 5 携帯電話からの着信状況	22
別表Ⅳ－ 6 携帯電話の消防機関別転送状況	22
別図Ⅳ－ 1 通報内容別着信状況	23
別図Ⅳ－ 2 月別着信状況	23
別図Ⅳ－ 3 携帯電話と固定電話からの着信比率の推移	24
別図Ⅳ－ 4 時間帯別着信件数の推移	24

災害概況のまとめ

(平成19年 1月～6月)

I 火災概況

本年上半期の火災件数は70件で、前年に比べ2件多くなっていますが、「建物火災」は15件少ない38件となっています。これは、暖冬の影響で暖房器具の使用が例年より少なかったことによると考えます。

火災原因については、本年も「放火（疑い含む）」が第1位を占め、続いて「火入れ」「こんろ」「焚き火」の順となっています。

全国統計においても、過去十数年「放火」が常に火災原因の第1位であることから、当管内においても更なる防火広報の実施と併せ、自治会などと連携した放火防止対策の推進が重要課題と考えています。

II 救急概況

救急出動件数は4,429件で前年に比べ163件、救急搬送人員は4,141名で141名の減少となり、過去5年間で初めての傾向です。

事故種別で見ますと、急病が半数以上を占め、次いで転院搬送、一般負傷、交通事故の順となっています。

年齢別で見ますと65歳以上の高齢者が搬送される件数が年々増加しており、今後、少子高齢化に伴い更に高齢者が占める割合が増加することが予測されます。

平成18年4月から、救急救命士が薬剤を投与できることとなり、心肺停止傷病者に対して救急現場での迅速な気管挿管、薬剤投与、除細動等の処置により救命のチャンスが増加すると考えられます。

III 救助概要

救助出動件数は、80件で前年に比べ42件減少しており、これは統計処理の変更に伴い減少したことによるものです。

救助活動件数は、56件で前年に比べ2件増加しましたが、大きな変化は見られませんでした。

全国的に地震、列車事故など災害規模が大規模化することに伴い、県内や県外の消防、医療、行政などの迅速な連携活動が必要不可欠となっています。

IV 119番着信概要

本年上半期の総着信件数は6,030件であり、着信総数及び携帯電話による通報件数とも横ばい傾向となっています。その内救急通報が、約70%4,253件と大きな件数を占めており、現在、固定電話、携帯電話、IP電話の3種類の電話から119番着信があります。尚、IP電話での着信件数は17年中67件、18年中310件、19年上半期242件と増加傾向にあります。

I 火災概況

(平成19年上半期 1月～6月)

1 火災の状況

(1) 火災件数

平成19年上半期の火災件数は70件で、前年に比べ2件(3%)多くなっています。

年 別	15年	16年	17年	18年	19年
火災件数	72件	52件	73件	68件	70件

(別表I-1・別図I-1参照)

(2) 火災種別

種別ごとの構成比率をみますと、建物火災が全体の55%と最も高い比率を占め、次いでその他火災(枯れ草火災など)31%、林野火災・車両火災の7%と続いています。

建物火災は前年に比べ15件少なくなっています。

(別表I-1・別図I-2参照)

(3) 月別

月別の火災件数をみますと、5月が19件で最も多く、次いで4月の16件、3月の15件となっています。

種別ごとの状況は、建物火災が5月に最も多く(11件)発生しています。

(別表I-2・別図I-3参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数をみますと、市部(米子市・境港市)で全体の69%を占めています。

(別表I-3・別図I-4参照)

(5) 損害額

損害額は、約7,857万円で、前年(2億1,427万円)に比べ1億3,570万円少なくなっています。

種別ごとの損害額をみますと、建物火災が全体の97%を占めています。

また、月別の損害額は、3月(3,261万円)が最も多く全体の42%、次いで1月(2,785万円)の35%となっています。

(別表I-1・別表I-2参照)

2 火災原因

原因は、「放火・放火の疑い」が15件で最も多く、次いで「その他」9件、「火入れ」6件、「こんろ」・「たき火」の5件と続いています。

(別表Ⅰ－4参照)

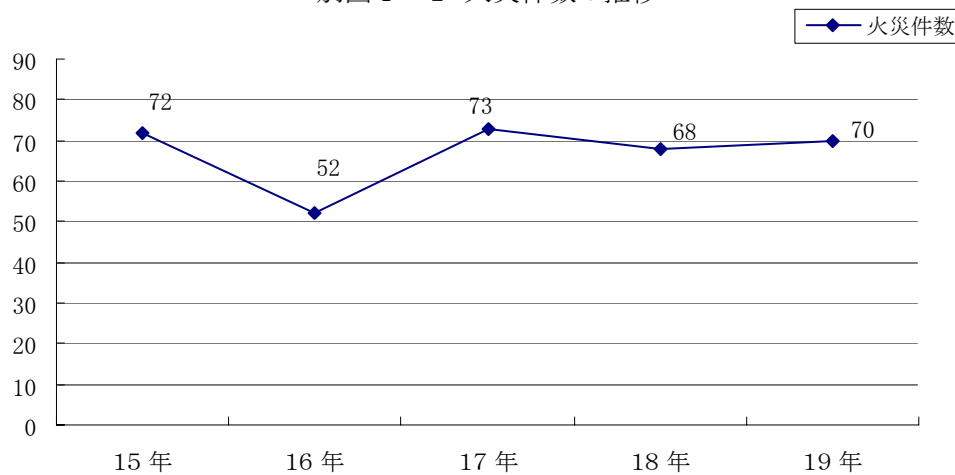
3 死者・負傷者

死者数は6人で、前年(4人)に比べ2人多くなっています。

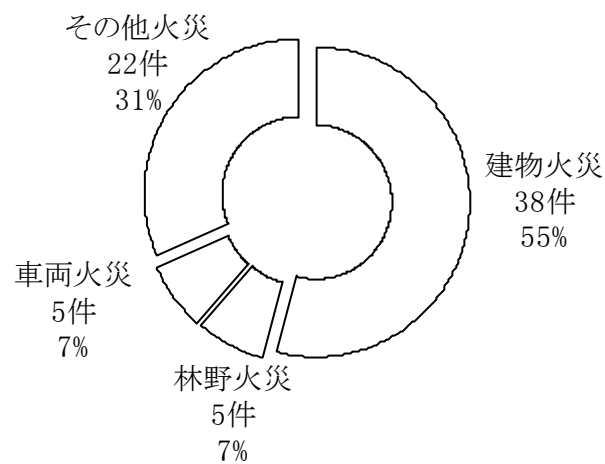
また、負傷者は前年と同数の11人で、消火中に負傷するケースが目立っています。

(別表Ⅰ－1. 別図Ⅰ－5. 別図Ⅰ－6参照)

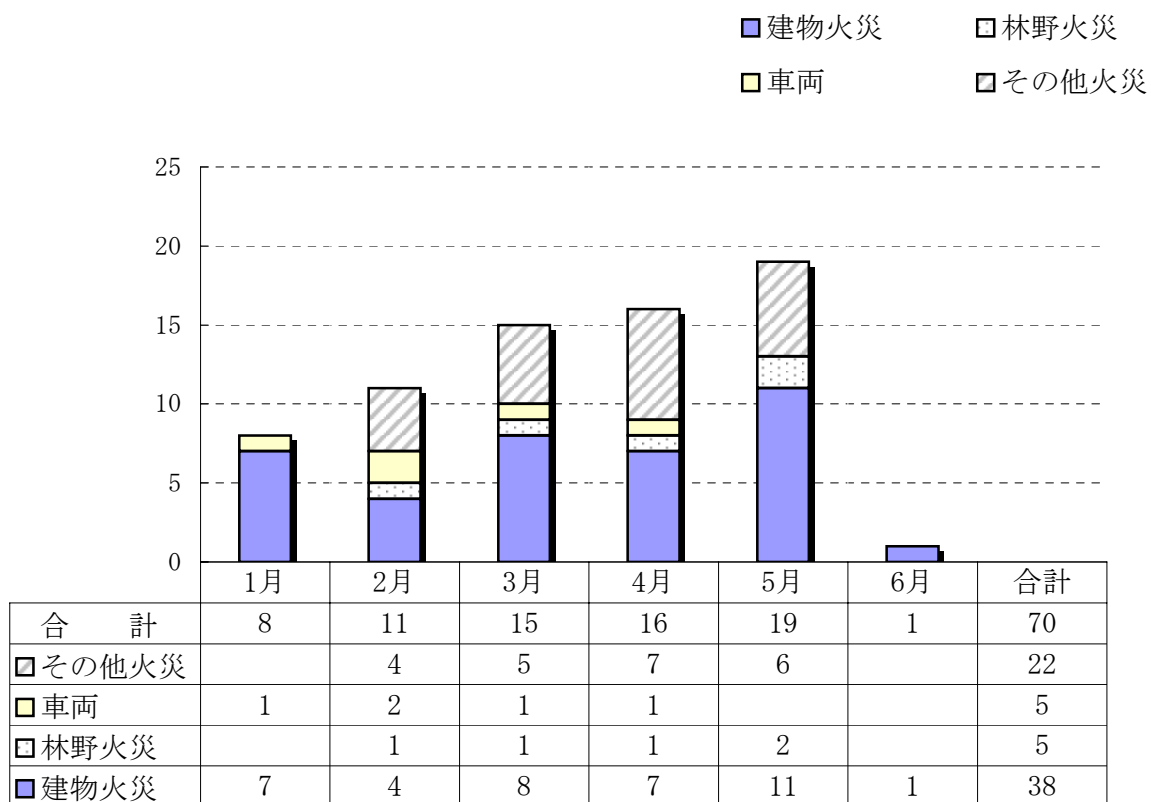
別図Ⅰ－1 火災件数の推移



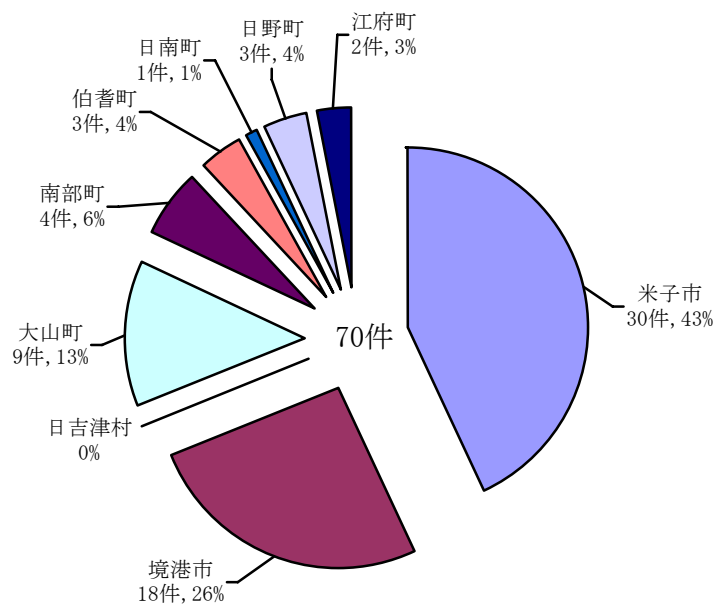
別図Ⅰ－2 種別ごとの火災件数と構成比率



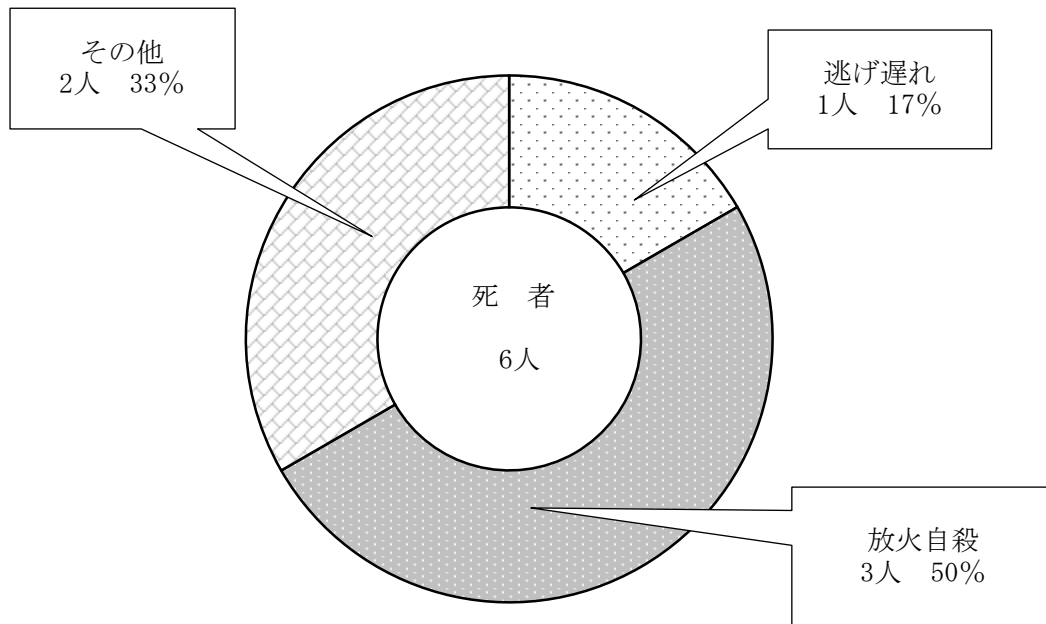
別図 I - 3 月別の火災件数



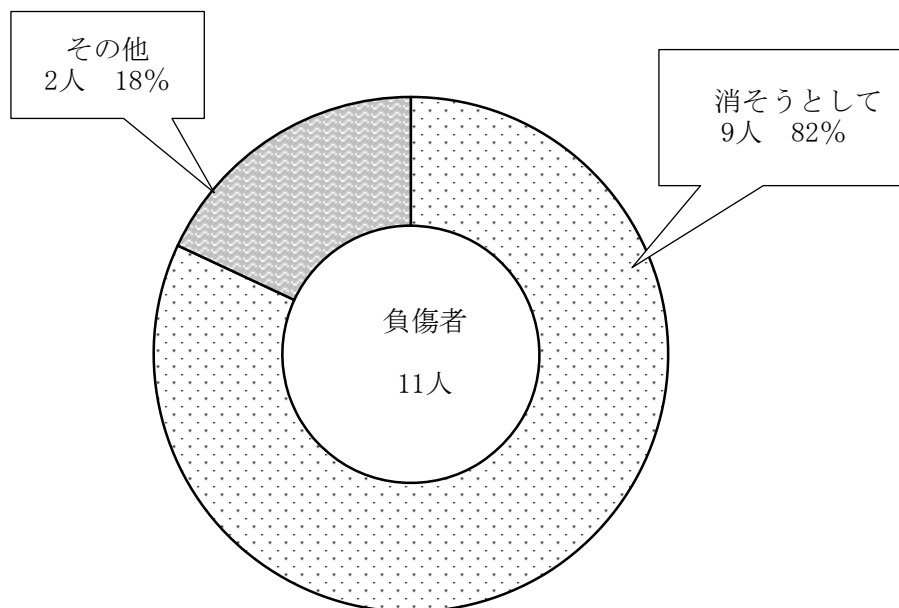
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率



別図 I - 5 経過別死者発生状況



別図 I - 6 経過別負傷者発生状況



別表 I - 1 平成 19 年上半期の火災概況

区 分		平成 19 年 A	平成 18 年 B	増 減 C (A - B)	増 減 率 C / B %
火 災 件 数 (件)		7 0 (100%)	6 8 (100%)	2	3%
建 物 火 災		3 8 (55%)	5 3 (78%)	- 1 5	-28%
林 野 火 災		5 (7%)	1 (1%)	4	400%
車 両 火 災		5 (7%)	8 (12%)	- 3	-38%
船 舶 火 災		()	()	0	-
そ の 他 火 災		2 2 (31%)	6 (9%)	1 6	267%
焼 損 棟 数 (棟)		4 7 (100%)	8 7 (100%)	- 4 0	-46%
全 焼		1 6 (34%)	1 9 (22%)	- 3	-16%
半 焼		5 (11%)	4 (5%)	1	25%
部 分 焼		1 5 (32%)	4 0 (46%)	- 2 5	-63%
ば や		1 1 (23%)	2 4 (27%)	- 1 3	-54%
罹 災 世 帯 数 (世 帯)		2 2 (100%)	5 6 (100%)	- 3 4	-61%
全 損		7 (32%)	1 3 (23%)	- 6	-46%
半 損		3 (14%)	3 (5%)	0	-
小 損		1 2 (54%)	4 0 (72%)	- 2 8	-70%
罹 災 人 員 (人)		6 0	1 6 7	- 1 0 7	-64%
焼 損 面 積	建物(m ²)	2, 2 2 1	4, 3 2 7	- 2, 1 0 6	-49%
	林野(a)	4 8		4 8	-
損 害 額 (千 円)		7 8, 5 7 0	2 1 4, 2 7 5	- 1 3 5, 7 0 5	-63%
建 物 火 災		7 6, 0 6 4	2 1 2, 8 7 0	- 1 3 6, 8 0 6	-64%
林 野 火 災		4 2 7		4 2 7	-
車 両 火 災		1, 7 7 9	1, 3 2 1	4 5 8	35%
船 舶 火 災				0	-
そ の 他 火 災		3 0 0	8 4	2 1 6	257%
1 件 当 り 損 害 額 (千 円)	火災全体	1, 1 2 2	3, 1 5 1	- 2, 0 2 9	-64%
	建物火災	2, 0 0 2	4, 0 1 6	- 2, 0 1 4	-50%
1 件 当 り 損 害 面 積	建物(m ²)	5 8	8 2	- 2 4	-29%
	林野(a)	1 0		1 0	-
死 者 (人)		6	4	2	50%
負 傷 者 (人)		1 1	1 1	0	-

備考 () 内は構成比を示す。

別表Ⅰ－２ 月別火災発生状況

	合 計		建物火災			焼損棟数					り災世帯					林野火災			車両火災		その他火災		死 者	負 傷 者	30日以内死亡
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	り災人員	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)			
1 月	8	27,853	7	27,122	970	10	5	1	1	3	5	3		2	15				1	731			2	1	
2 月	11	863	4	476	40	4	1		2	1	1			1	4	1		7	2	387	4		1	2	
3 月	15	32,611	8	32,551	401	8	2	2	3	1	6	1	3	2	17	1		17	1	60	5		2	2	
4 月	16	5,718	7	4,718	492	11	5	1	1	4	3	2		1	9	1	399	18	1	601	7		1	2	
5 月	19	5,450	11	5,122	163	12	2	1	7	2	5			5	10	2	28	6			6	300		4	
6 月	1	6,075	1	6,075	155	2	1		1		2	1		1	5										
合計	70	78,570	38	76,064	2,221	47	16	5	15	11	22	7	3	12	60	5	427	48	5	1,779	22	300	6	11	

別表Ⅰ－３　市　町　村　別　火　災　発　生　状　況

	火　災　件　数						焼　損　面　積			焼損棟数					り災世帯数				り 災 人 員	死 者	負 傷 者	3 0 日 以 内 死 亡	損 害 額 (千　円)
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	床 面 積 ㎡	表 面 積 ㎡	林 野 a	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	合 計	全 損	半 損	小 損					
米　子　市	30	20		2		8	779	36		22	6	4	6	6	11	2	2	7	28	3	5		44,877
境　港　市	18	5		1		12	314	26		6	2		3	1	3	2		1	7	3			4,313
日吉津村	0																						
大　山　町	9	5	2	1		1	1,036	12	23	11	6	1		4	4	3		1	12		2		26,285
南　部　町	4	2	2				9		18	2			2		1			1	4		1		47
伯　耆　町	3	1	1			1		1	7	1			1										4
日　南　町	1	1					20			1	1										1		192
日　野　町	3	2		1			18	3		2	1		1		1			1	3		1		765
江　府　町	2	2					45			2			2		2		1	1	6		1		2,087
合　計	70	38	5	5		22	2,221	78	48	47	16	5	15	11	22	7	3	12	60	6	11		78,570

別表 I ー4 原因別火災発生状況

原 因 別	火災件数							損害額 (千円)	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合 計	70	38	5	5			22	78,570	6	11
たばこ	1			1				207		
こんろ	5	5						420		3
かまど										
風呂かまど										
炉										
焼却炉										
ストーブ	1	1						2		1
こたつ										
ボイラー										
煙突・煙道	1	1						4		
排気管										
電気機器										
電気装置	2			1			1	901		
電灯・電話等の配線	4	4						14,451		1
内燃機関										
配線器具										
火あそび	2	2						648		2
マッチ・ライター	1	1						6		2
たき火	5	1	2				2	33		1
溶接機・切断機										
灯火	1	1						18,152		
衝突の火花										
取灰										
火入れ	6	2	1				3	1,754		
放火	3	1					2	867	3	
放火の疑い	12	5					7	4,061		
その他	9	7		2				5,750		1
不明・調査中	17	7	2	1			7	31,314	3	

Ⅱ 救急概況

(平成19上半期 1月～6月)

1 救急出場状況、救急搬送状況

平成19年上半期の救急出場件数及び救急搬送人員は、それぞれ4,429件、4,141人であり、前年同期と比べて救急出場件数は163件、救急搬送人員は142名の減少となりました。

(別図Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅱ－3参照)

2 市町村別救急活動状況

市町村別では、米子市の救急出場件数及び救急搬送人員がそれぞれ2,562件(58%)、2,367人(57%)と半数以上を占めています。

(別図Ⅱ－4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員を見ると、中等症が1,968人(48%)で最も多く、次いで軽症が1,373人(33%)、重症695人(17%)、死亡98人(2%)となっています。

(別図Ⅱ－5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員のうち年齢区分を見ると、65歳以上の高齢者は2,343人(57%)で半数以上を占めています。

(別図Ⅱ－6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別の救急出場件数、救急搬送人員ともに米子市を管轄する米子消防署、皆生出張所で約半数を占めています。

(別図Ⅱ－7参照)

6 月別救急活動状況

月別の救急出動件数を見ると、3月の842件が最も多く、次いで1月、5月となっています。

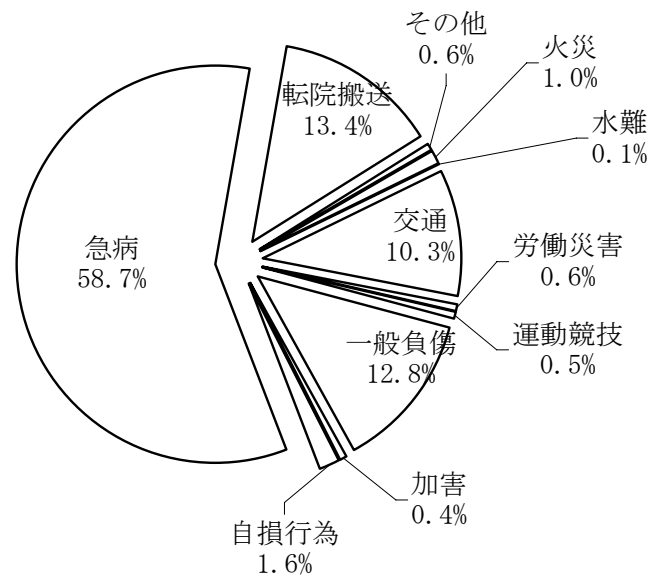
(別図Ⅱ－8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は6分54秒、平均収容所要時間は32分58秒であり、前年同期と比べて平均現場到着所要時間は22秒、平均収容所要時間は18秒短縮しています。

(別図Ⅱ－9、Ⅱ－10参照)

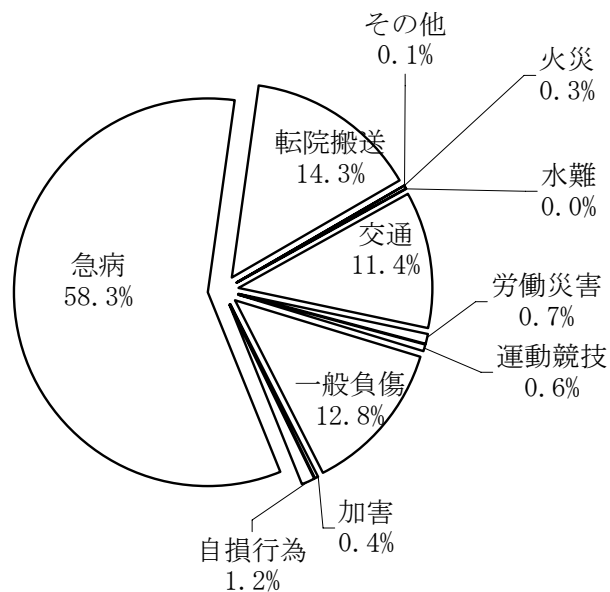
別図Ⅱ-1 事故種別救急出場状況



事故種別	火災	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出場件数	46	4	456	28	23	565	19	72	2,599	592	25	4,429

※自然災害は、発生しませんでした。

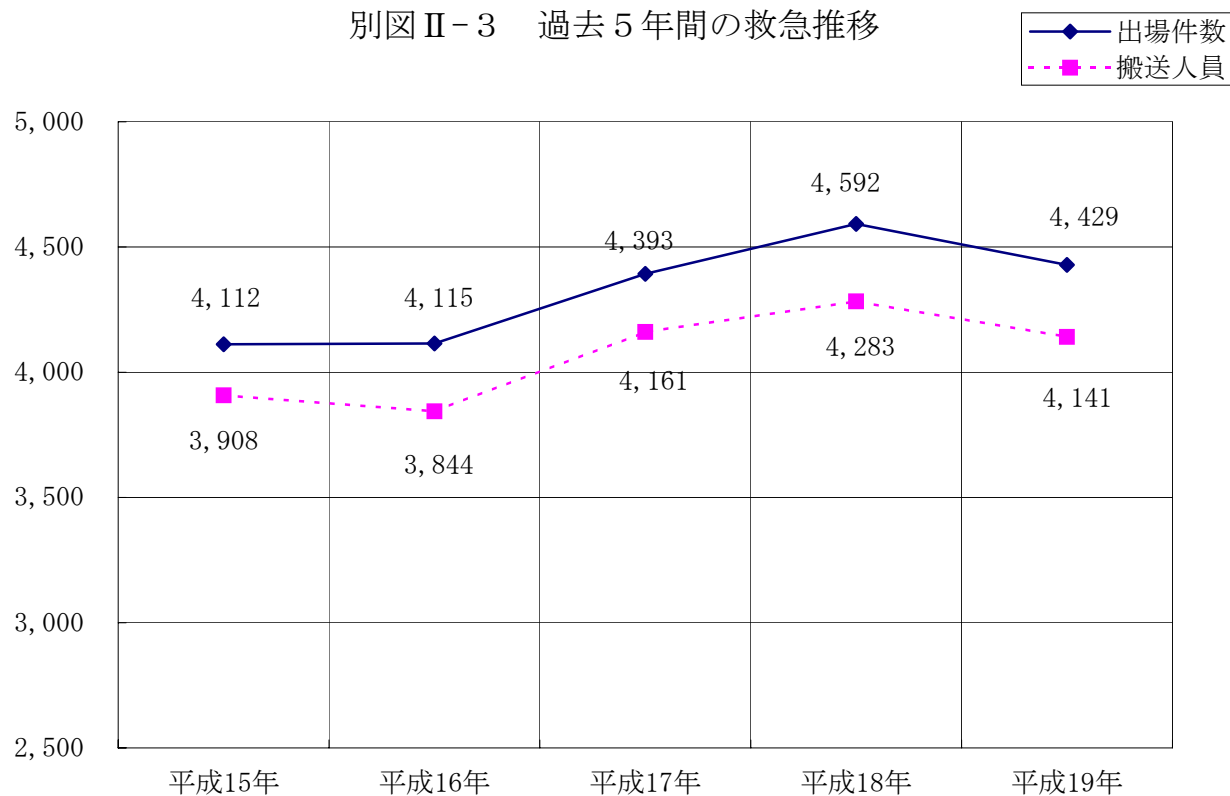
別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況



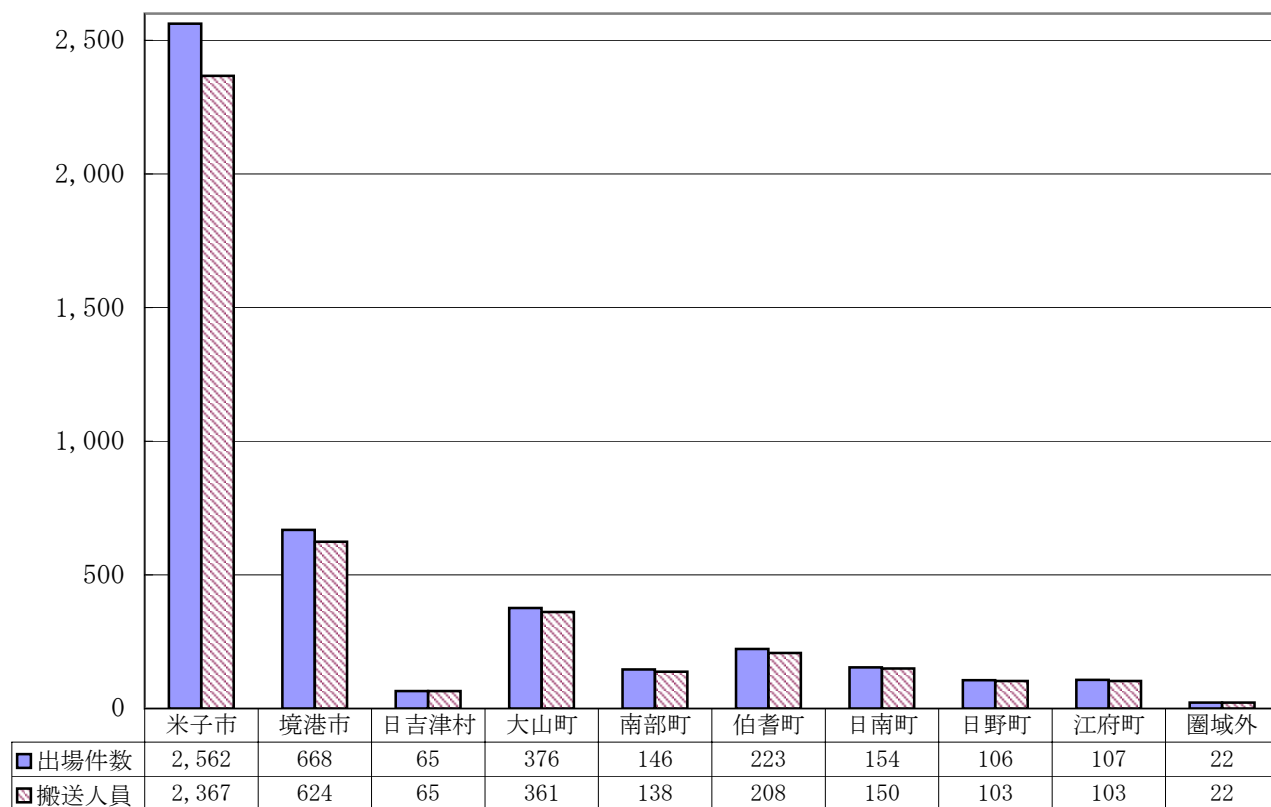
事故種別	火災	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	11	2	472	29	23	529	16	48	2,416	591	4	4,141

※自然災害は、発生しませんでした。

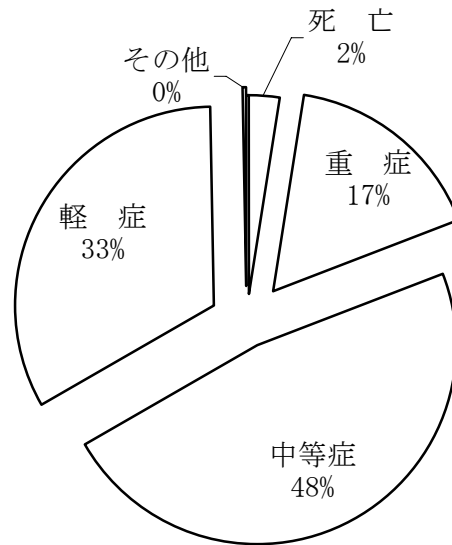
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

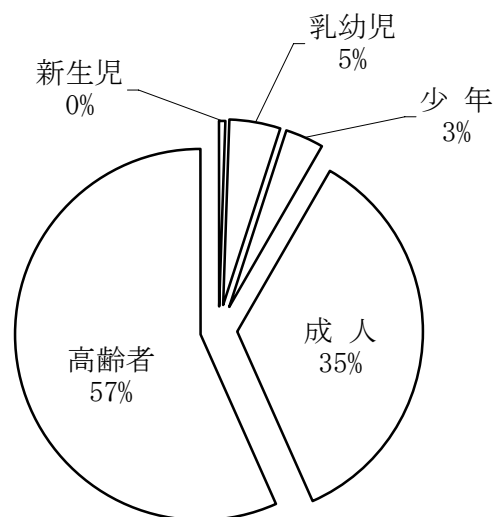


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



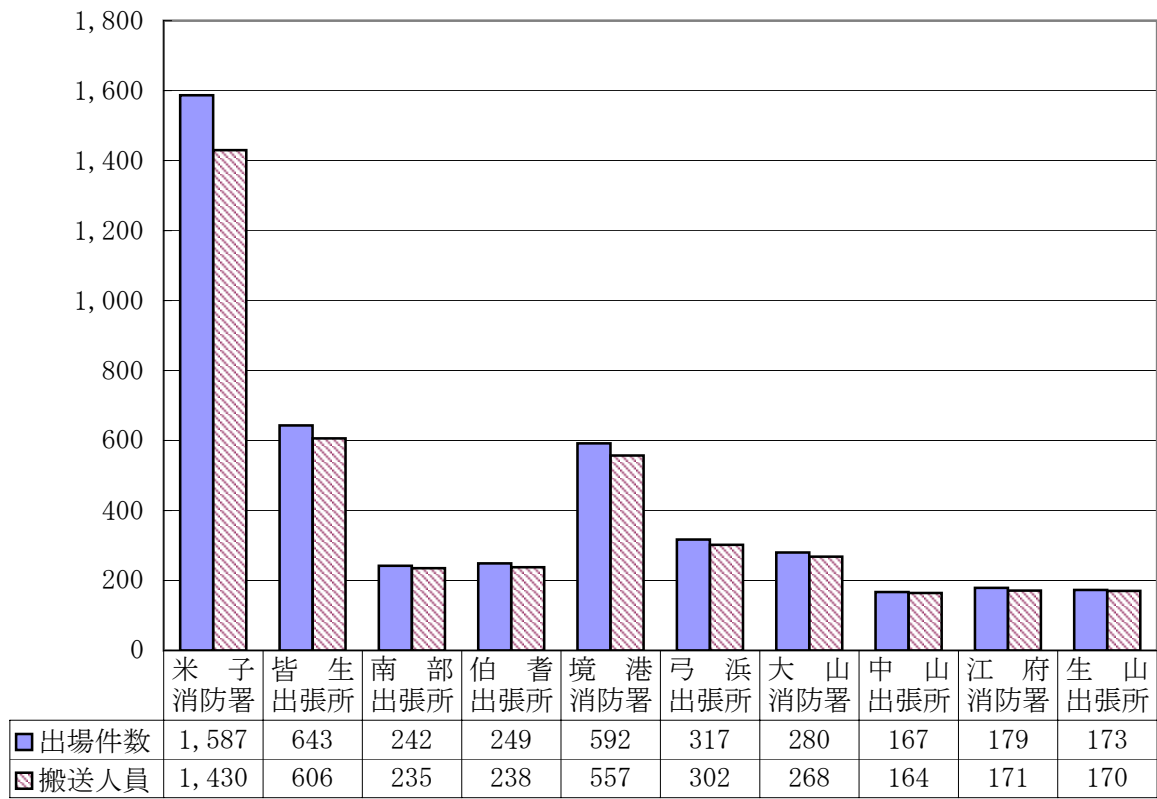
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	98	695	1,968	1,373	7	4,141

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

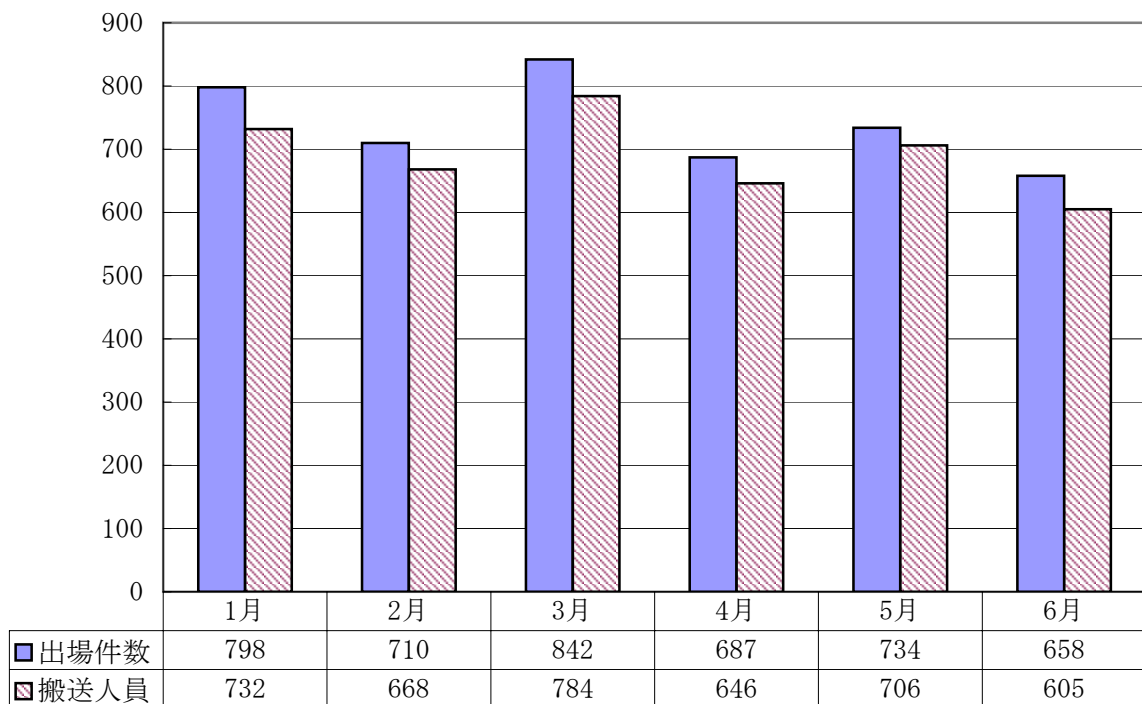


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	18	187	139	1,454	2,343	4,141

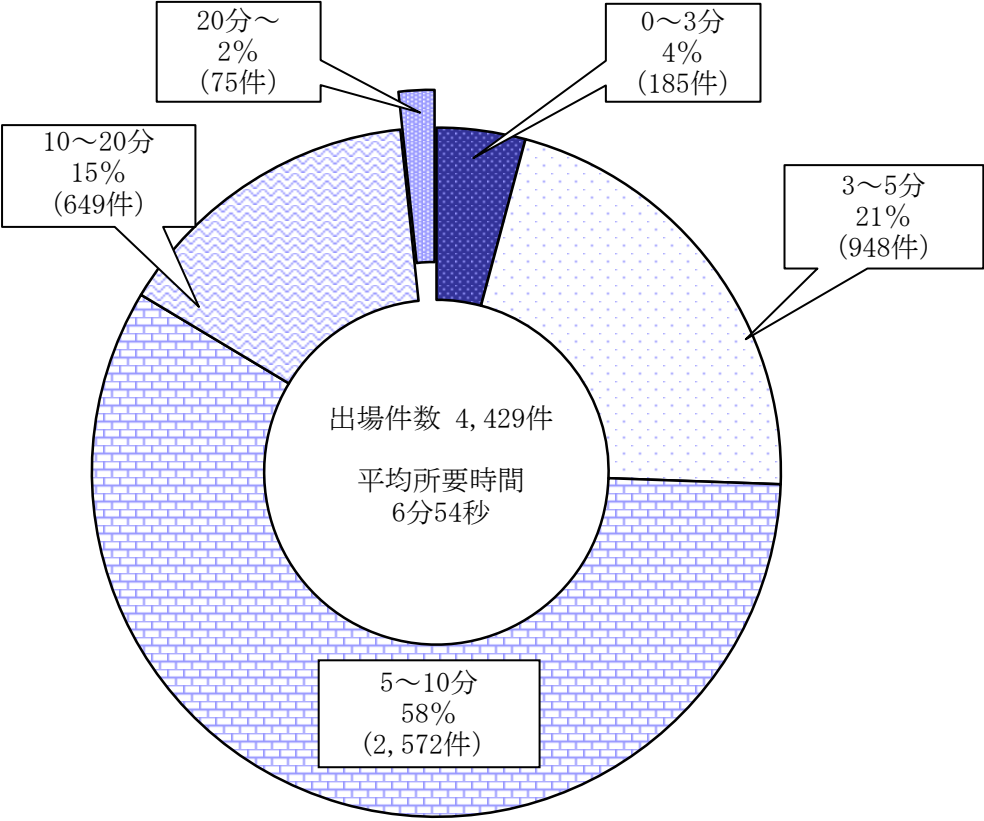
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



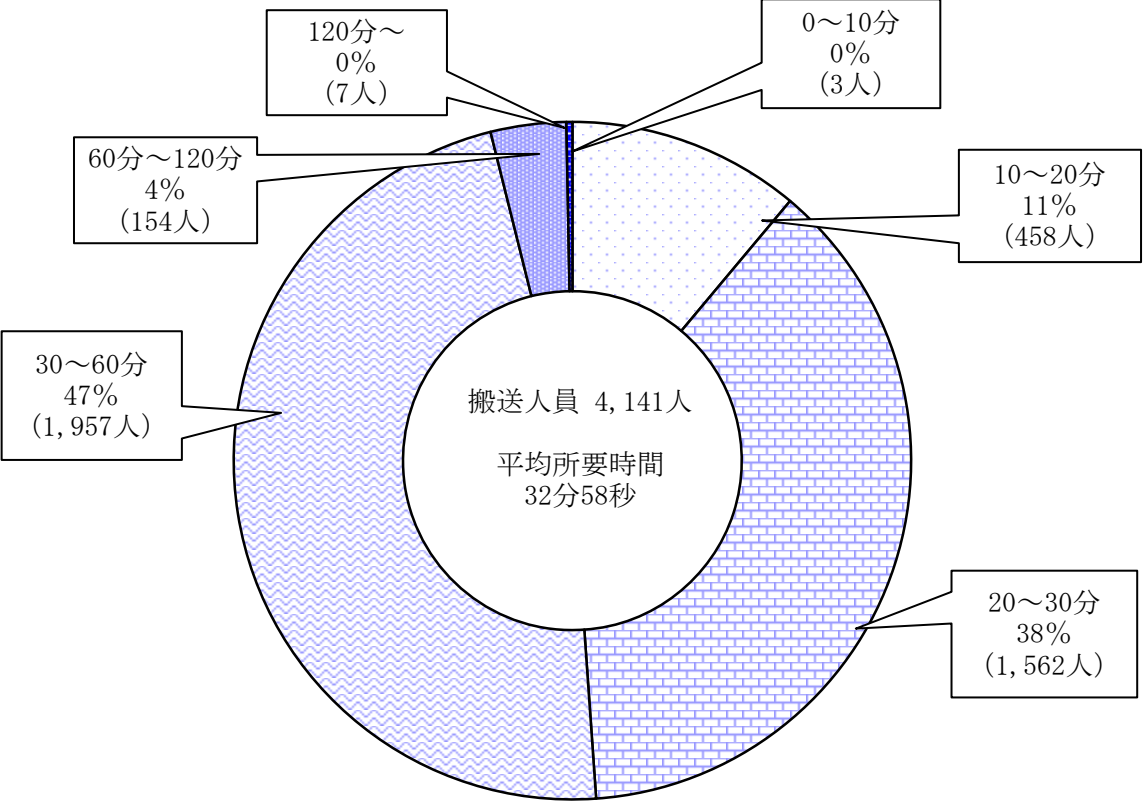
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



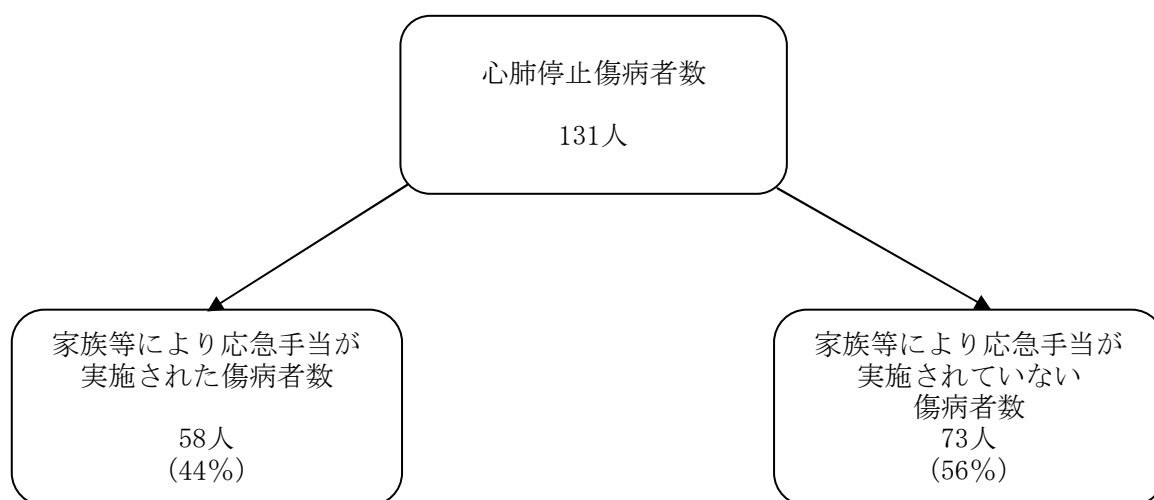
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



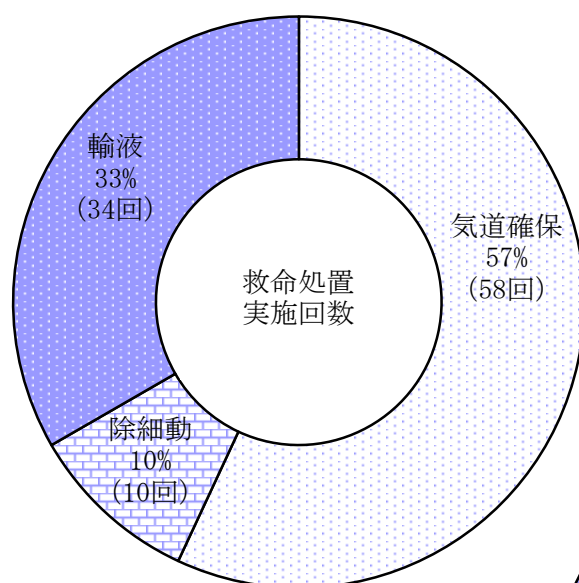
別図Ⅱ-10 収容所要時間



別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況

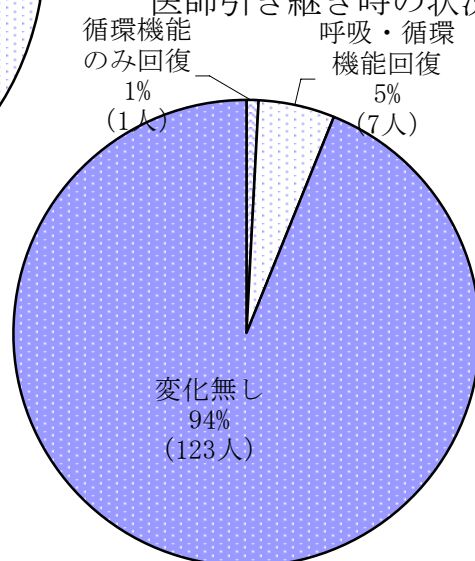


別図Ⅱ-1 2 救急救命処置状況



※対象人数は102人でした。

別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



Ⅲ 救助概要

(平成19年上半期 1月～6月)

1 事故種別救助出場状況

救助出場件数は80件あり、そのうち交通事故が41件(50%)と最も多く、火災が22件(28%)、水難事故が4件(5%)、機械事故が2件(3%)、建物事故が2件(3%)、その他の事故が9件(11%)となっています。

(別図Ⅲ-1 参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は56件あり、そのうち交通事故が25件(45%)、火災が22件(9%)、水難事故が3件(5%)、建物事故2件(4%)、その他の事故が4件(7%)となっています。

(別図Ⅲ-2 参照)

3 事故種別救助人員状況

救助された人員は42人あり、そのうち交通事故が32人(76%)と最も多く、水難事故が3人(7%)、建物事故が2人(5%)、その他の事故が5人(12%)となっています。

(別図Ⅲ-3 参照)

4 管轄別救助活動状況

事故が発生した場所を消防署の管轄別で比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員とも米子消防署が最も多く、境港、江府、大山消防署の順となっています。

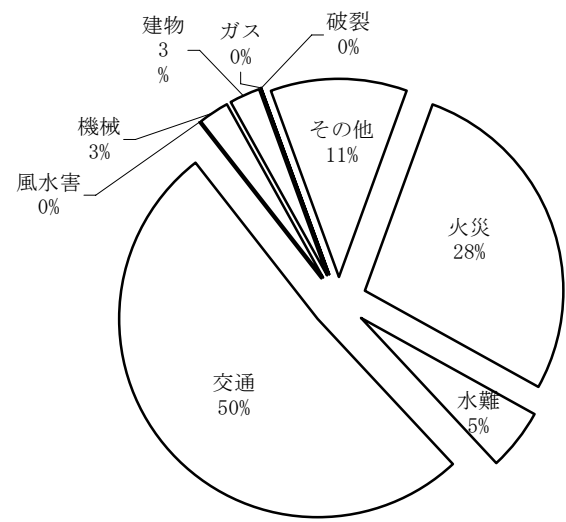
(別図Ⅲ-4 参照)

5 市町村別救助活動状況

事故が発生した場所を市町村別で比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市、境港市、大山町の順となっています。

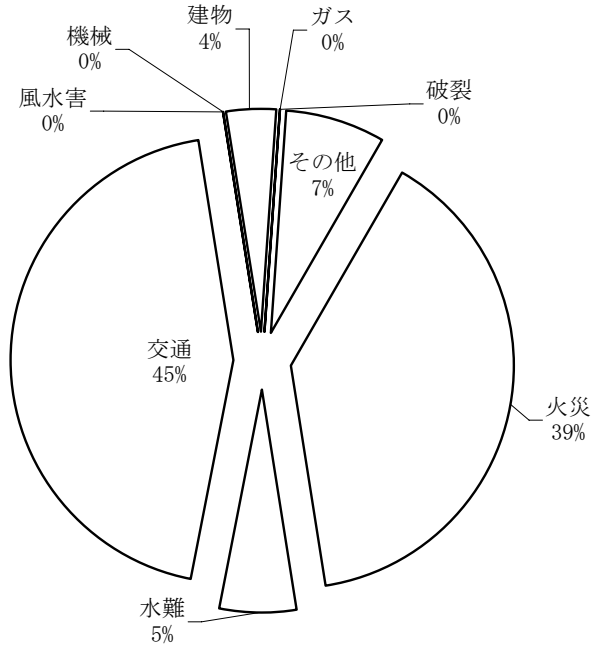
(別図Ⅲ-5 参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出場状況



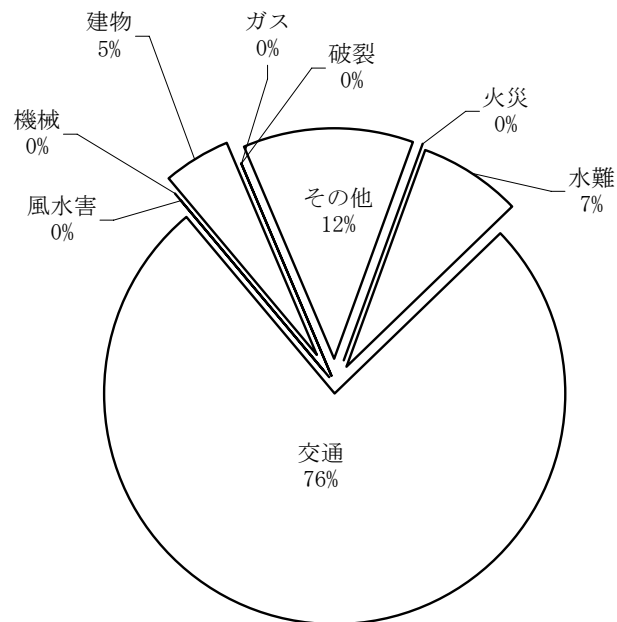
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	22	4	41	0	2	2	0	0	9	80

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



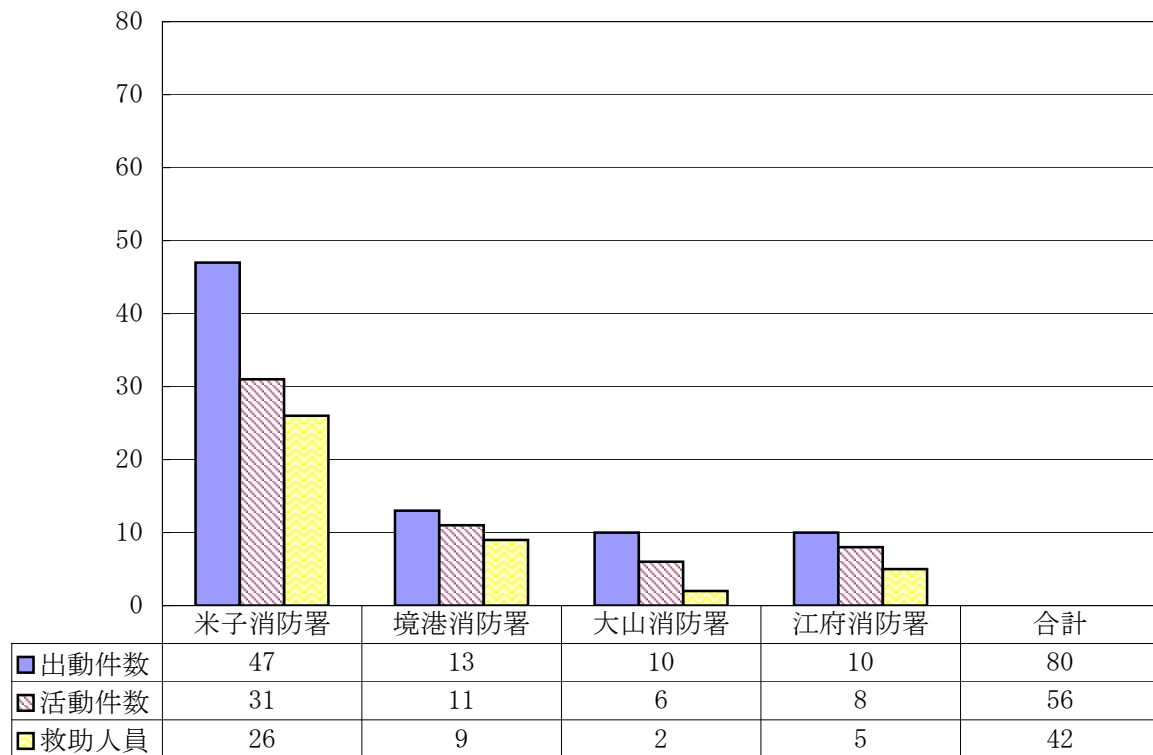
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	22	3	25	0	0	2	0	0	4	56

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

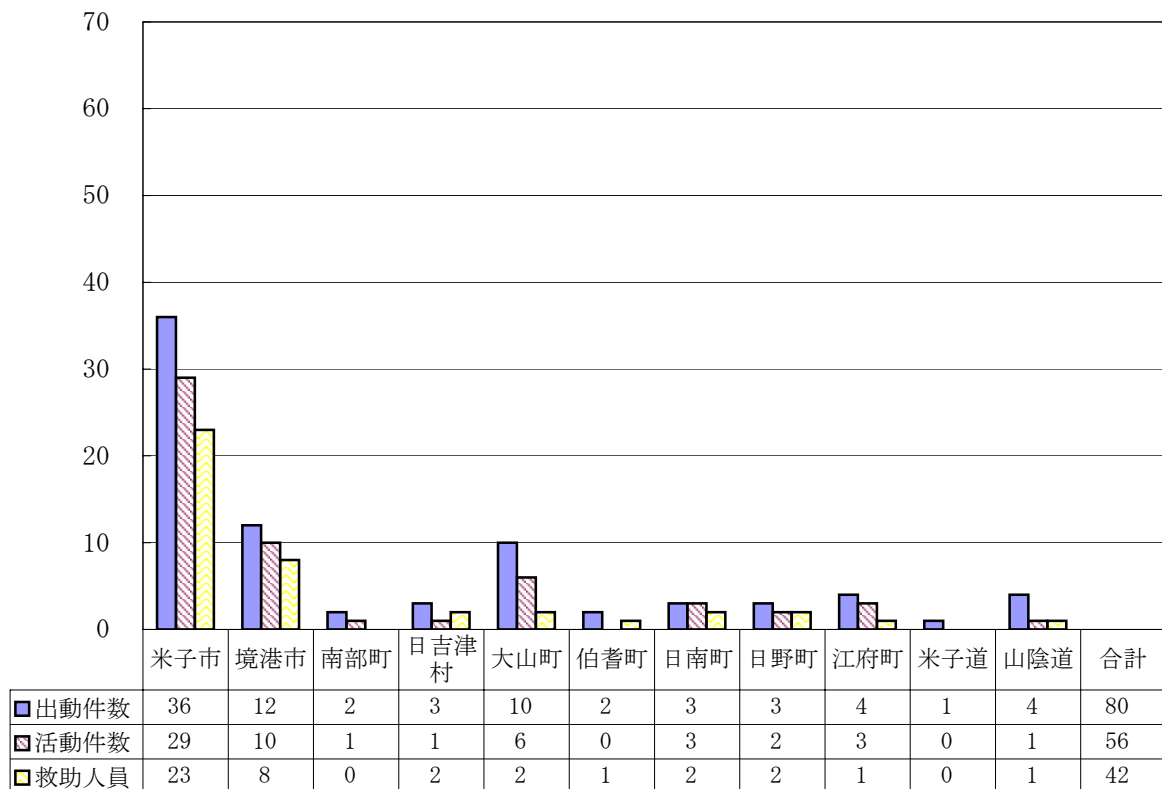


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員		3	32	0	0	2	0	0	5	42

別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



IV. 119番着信状況

(平成19年1月1日～6月30日)

1. 概況

平成19年上半期の119番通報は、総着信件数で6,030件あり、1ヶ月平均にすると約1,005件、1日平均では約34件の着信となります。

通報内容としては、やはり救急通報が最も多く4,253件(71%)でした。

火災通報は152件(3%)で去年より47件少なくなっており、そのほかの通報としては、間違いが456件(8%)、通報訓練などの通報が526件(8%)、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が508件(8%)であり、救助が34件(1%)、いたずらと思われるものも半減していますが、51件(1%)ありました。

(別表IV-1、別図IV-1参照)

2. 月別の着信状況

月別での平均着信件数は1,005件、最も多かったのは3月の1,163件、逆に最も少なかった月は6月の922件です。救急通報の月平均着信件数は約708件、最も多かったのは3月の824件、逆に最も少なかったのは4月の631件でした。火災通報は月平均約25件、最も多かったのは4月の47件、逆に最も少なかったのは6月の11件でした。時間帯別119番通報の着信件数は、人が活動し始める時間帯に増加しています。

(別表IV-2、別図IV-2、IV-4参照)

3. 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は1,465件で、全着信件数の24%でした。

携帯電話で119番通報されますと、通話される地域等により必ずしも、電話をされた地区を管轄する消防に接続されるとは限りません。管轄地区以外の通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応を願い、またその逆もあります。これを携帯電話の消防機関別転送処理状況として別表(IV-6)に表示しています。また、他の消防機関との転送処理件数は35件ありました。

携帯電話による通報では発信地表示システムが使用できないため、災害現場把握に時間を多く要することから、できるだけ固定電話での通報をお願いします。

(別表IV-3、IV-5、IV-6、別図IV-3参照)

4. 電話種別による通報状況

平成10年10月から運用開始した携帯電話等からの、119番受信件数は毎年増加していましたが、月に250件程度で横ばい傾向です。平成17年7月よりIP電話からの119番通報ができるようになり、平成19年上半期は242件(4%)と、増加傾向にあります。

(別表IV-3、IV-4、別図IV-3参照)

別表Ⅳ－１

１１９番着信件数の推移（上半期）

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
平成１５年	141	3,839	—	54	566	184	598	764	6,146
平成１６年	148	3,799	—	67	576	347	563	821	6,321
平成１７年	248	4,229	—	56	557	127	436	980	6,633
平成１８年	199	4,461	34	42	593	104	412	465	6,310
平成１９年	152	4,253	34	50	508	51	456	526	6,030

別表Ⅳ－２

月別１１９番着信状況（上半期）

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１月	13	746	4	6	107	12	64	54	1,006
２月	13	696	6	11	62	12	71	75	946
３月	38	824	2	6	81	5	90	117	1,163
４月	47	631	9	9	84	14	71	108	973
５月	30	703	5	7	98	4	92	81	1,020
６月	11	653	8	11	76	4	68	91	922
合計	152	4,253	34	50	508	51	456	526	6,030
月平均	25	708	6	8	85	9	76	88	1,005

別表Ⅳ－３

電話種別による１１９番着信件数の推移（上半期）

	携帯電話からの 着信件数	固定電話からの 着信件数	I P 電 話	合 計
平成１５年	1,452	4,694		6,146
平成１６年	1,711	4,610		6,321
平成１７年	1,562	5,004	67	6,633
平成１８年	1,527	4,690	93	6,310
平成１９年	1,465	4,323	242	6,030

別表Ⅳ－４

電話種別の通報状況（上半期）

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１１９固定	５９	３,２１６	１１	２１	２６６	２７	２６５	４５８	４,３２３
１１９携帯	６１	９０４	２２	２９	２２０	２４	１６９	３６	１,４６５
１１９ＩＰ	３２	１３３	１	０	２２	０	２２	３２	２４２
総合計	１５２	４,２５３	３４	５０	５０８	５１	４５６	５２６	６,０３０

別表Ⅳ－５

携帯電話からの着信状況（上半期）

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に 転送をした件数
直接通報を 受けた件数	他の消防機関から 転送受信した件数	総着信件数	
１,４５４	１１	１,４６５	２４

別表Ⅳ－６

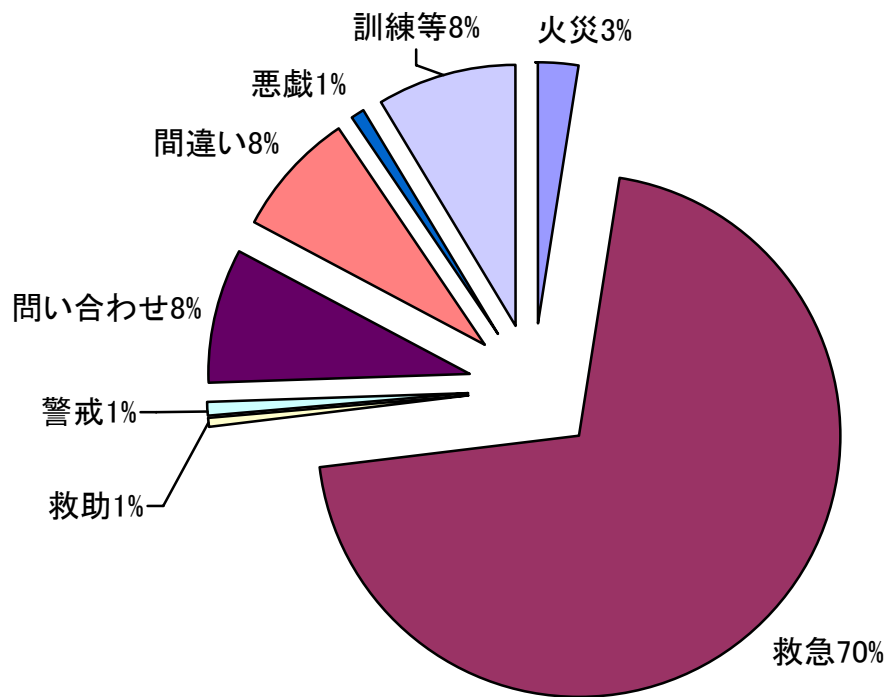
携帯電話の消防機関別転送状況（上半期）

他の消防機関から転送を受信した件数				
消防	火災	救急	その他	合計
松江		１		１
安来		６	１	７
雲南				
東部		１		１
中部		２		２
新見				
真庭				
津山				
備北				
合計		１０	１	１１

他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計
松江	１	１４	１	１６
安来		５		５
雲南				
東部			１	１
中部		１		１
新見		１		１
真庭				
津山				
備北				
合計	１	２１	２	２４

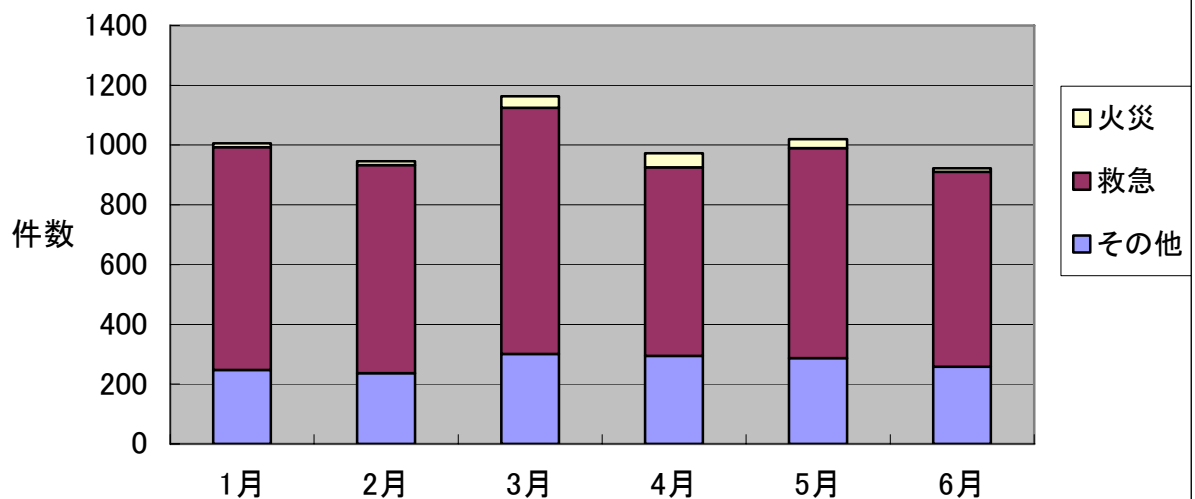
別図Ⅳ－1

通報内容別着信状況



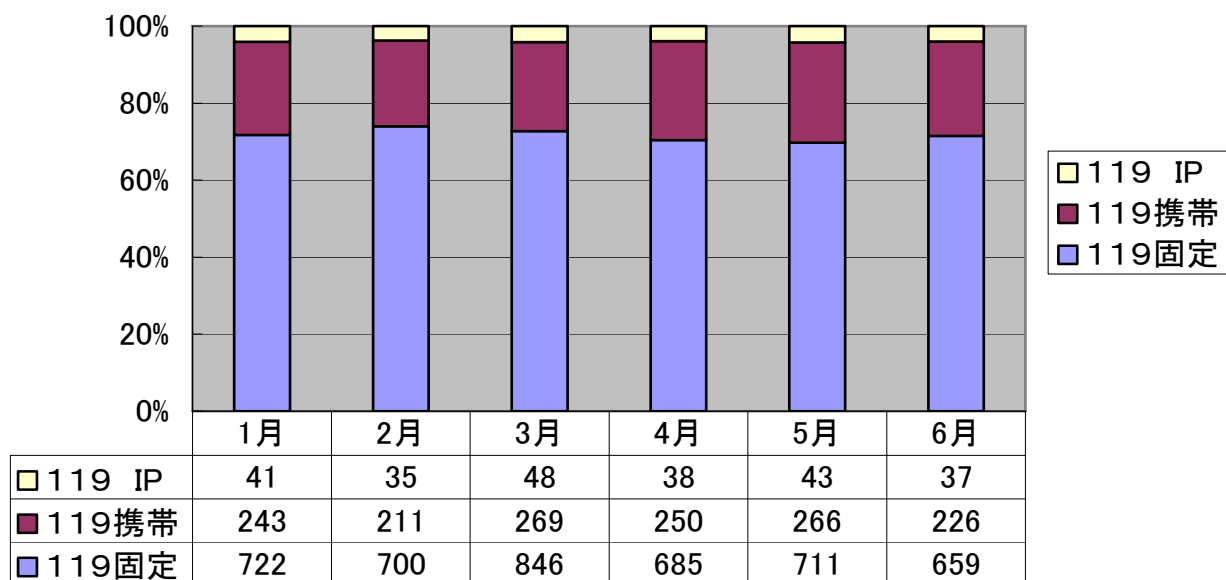
別図Ⅳ－2

月別着信状況



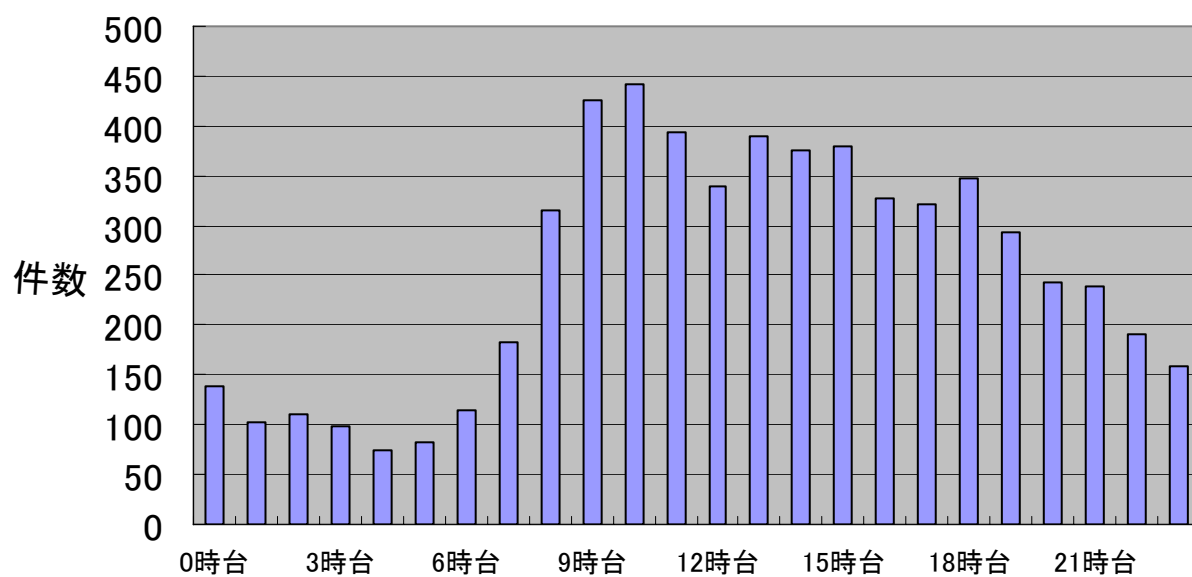
別図Ⅳ－3

固定電話、携帯電話、IP電話からの着信比率



別図Ⅳ－4

時間帯別着信件数状況



火は見てる あなたが離れる その時を

平成19年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町1丁目103番地の1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生5丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市中野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3132	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記にお願いします。

火災…………… 予防課予防係 0859-35-1954
救急救助…………… 警防課救急救助係 0859-35-1959
119番着信状況…指令課指令係 0859-35-1960

平成19年7月発行

〒683-0853 米子市両三柳5452番地

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

TEL 0859-35-1951(代)